

2020年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：地域経済学特論	
担当教員名：樺 克裕	
<p>授業科目概要：</p> <p>現在の日本の地域経済は、モータリゼーションや立地規制の緩和等により伝統的な商店街の多くは疲弊し、空き店舗が目立ち、グローバル経済の影響を受け、中小製造業も円高の進展や下請け関係の解消等厳しい状況にあり、地方に誘致した大企業の工場も数年で移転、閉鎖する等大変厳しい状況にあります。</p> <p>このように、現在の日本の地域経済は、国内の経済だけでなく、世界経済と密接に繋がっています。この科目では、世界経済、日本経済の最新の現状分析とより理解を深めるための理論分析を組み合わせて、地域経済に対する理解を深めることを目的とします。</p>	
<p>履修上の留意事項：</p> <p>授業は、輪読形式で行います。テキストは、受講者と相談の上決定しますが、佐藤(2014)を有力候補と考えています。</p> <p>テキストを読み込むことも大事ですが、受講者の皆様には地域経済の現状に関心を持って履修されることを希望します。</p>	
教科書・参考書（参考文献）	
<p>書名：『都市・地域経済学への招待状』</p> <p>著者／編者：佐藤泰裕</p> <p>出版社：有斐閣(有斐閣スタジオ)</p> <p>出版年：2014年</p>	<p>書名：『都市経済学(第2版)＜プログレッシブ経済学シリーズ＞』</p> <p>著者／編者：金本良嗣・藤原 徹</p> <p>出版社：東洋経済新報社</p> <p>出版年：2016年</p>
<p>書名：『都市経済学』</p> <p>著者／編者：高橋孝明</p> <p>出版社：有斐閣(有斐閣ブックス)</p> <p>出版年：2012年</p>	<p>書名：『〈サピエンティア〉空間経済学』</p> <p>著者／編者：曾道智・高塚創</p> <p>出版社：東洋経済新報社</p> <p>出版年：2016年</p>
<p>書名：『集積の経済学』</p> <p>著者／編者：藤田昌久他著 徳永他訳</p> <p>出版社：東洋経済新報社</p> <p>出版年：2017年</p>	<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>
<p>評価方法及び判定基準：</p> <p>評価は授業中の貢献によって判定します。試験は実施しません。</p>	
<p>授業目標及び進め方：</p> <p>先にも述べたように輪読形式で授業を進めます。受講者は、割り当てられた部分について発表して貰います。それについて、私の方からコメントや質問等を行い、議論を深めていければと考えています。</p>	

第1回	<p>テーマ：日本の地域と都市</p> <p>内容：日本の地域と都市の現状</p>
第2回	<p>テーマ：地域の産業構造</p> <p>内容：産業構造と産業連関表</p>

第3回	テーマ：地域間人口移動（1） 内 容：地域間人口移動の現状
第4回	テーマ：地域間人口移動（2） 内 容：地域間人口移動の理論分析
第5回	テーマ：集積の経済と都市化（1） 内 容：人口集中の利益と不利益
第6回	テーマ：集積の経済と都市化（2） 内 容：集積の経済の理論
第7回	テーマ：住宅市場 内 容：地価と地代の理論分析
第8回	テーマ：都市内土地利用の分析（1） 内 容：チューネンモデル
第9回	テーマ：都市内土地利用の分析（2） 内 容：アロンゾ・ムース・ミルズモデル
第10回	テーマ：都市システムモデルと最適人口規模（1） 内 容：都市規模決定の基本モデル
第11回	テーマ：都市システムモデルと最適人口規模（2） 内 容：都市システムモデル
第12回	テーマ：地域間交易 内 容：地域間交易のモデル
第13回	テーマ：空間経済学 内 容：空間経済学のモデル
第14回	テーマ：交通サービス 内 容：交通経済学のモデル
第15回	テーマ：地方政府と地域経済 内 容：租税競争・公共財の供給